平成２９年　新春初詣会
「谷根千界隈の見学」
資　料

START
10：00
メトロ東大前集合

10：05
東京大学農学部　①

10：15
弥生式土器発見ゆかりの碑
②

10：35~11：15
根津神社(初詣)　③

11：30~12：15
大島屋（昼食）　④

12：25~12：35
全生庵　⑤

12：45　築地塀　⑤

13：00~13：40
朝倉彫塑館　⑥

13：50　経王寺　⑥

13：50~14：50
谷中銀座自由散策
⑦

15：00
経王寺
⑥

15：10
天王寺
⑦

15：10
谷中霊園
⑦

15：20
本邦火災保険鼻祖
柳川清助の墓
⑧

GOAL
15：30
日暮里駅解散

平成 29 年（2017 年）1 月 14 日（土）

まほろば会

【谷根千】（やねせん）

東京都文京区東部から台東区西部にかけての称。谷中・根津・千駄木を中心とする地域
谷中、根津、千駄木の３つの地区の冒頭の一字を取って「谷根千」地区と称するようになった。（本資料の最終頁にＭＡＰ）

【東京大学】（センター試験当日のため入構できません）

我が国最初の官立大学。日本の近代化に大きな役割を果たしてきた。 起源はいくつかあるが徳川幕府の学問所であった昌平坂学問所が最も古い起源と考えられる。
本郷キャンパスは東京大学のメインキャンパスであり、その象徴である大講堂（安田講堂）は安田財閥の祖である安田善次郎の寄付により建設された。

【ハチ公と上野博士】（センター試験当日のため入構できません）

【農学部のハチ公】

【渋谷駅のハチ公】

大の犬好きであった東大農学部教授上野英三郎博士は、秋田犬のハチを大いに可愛がり、大学や渋谷駅にいつも送り迎えをさせていました。1925 年（大正 14 年）5 月 21 日、博士が大学で急死。ハチ公は飼い主が急死した後も、渋谷駅に毎日かよって、死ぬまで 10 年間も待ち続けました。
ハチ公は晩年、有名になってから「忠犬」と呼ばれるようになり、戦争と軍国主義の時代にあって恩を忘れぬ犬として修身教育に利用されました。
2015 年、有志により、上野博士を出迎えたハチ公の像が東大農正門内に建立されました。

【弥生土器の発見】　向ヶ丘弥生町（現在は東京大学工学部構内）

1884年（明治17年）3月、東京府本郷区向ヶ丘弥生町（現在は東京都文京区弥生2丁目）の貝塚から縄文土器とは違った赤褐色・素焼きの壺が坪井正五郎博士（東京帝大）等により発掘された。

大正時代に九州帝大の中山平次郎博士が板付田端遺跡の発掘調査の結果から、石器時代と古墳時代の間の金属器・石器併用時代を提唱したことから、東京帝大関係者により弥生土器を使用する「弥生時代」という概念が使用されることになった。

当該土器は弥生時代後期のものと考えられるが、東海地方東部、特に駿河湾付近の特徴を残していることから、移住者の環濠集落ではないか、と推測されている。
弥生土器は九州北部で発生したと推察されているが、九州から関東まで達するには時期差がある。

土器は年代を決める指標としての役割を担っている。土器が最も一般的・普遍的で豊富な遺物であり、この変遷を辿ることにより年代の目盛を作ることが可能となる。

地名「弥生」の由来
水戸藩中屋敷に建てられていた歌碑にある徳川斉昭の和歌“名にしおふ春に向ふが岡なれば世にたぐひなきはなの影かな”の前段詞書に弥生（3月）を詠んだとあることにちなんでいる。

【根津神社】（ねづじんじゃ）

日本武尊が 1900 年近く前に創祀したと伝える古社で、東京十社の一社に数えられている。境内はツツジの名所として知られ、森鴎外や夏目漱石といった日本を代表する文豪が近辺に住居を構えていたこともあり、これらの文豪に因んだ旧跡も残されている。
現在の社殿は宝永 3 年（1706 年）の創建である。宝永 2 年（1705 年）江戸幕府第 5 代将軍徳川綱吉の養嗣子に家宣（第 6 代将軍）が入ったため、元の屋敷地が献納され、「天下普請」と言われる大工事で社殿が造営されたものである。権現造（本殿、幣殿、拝殿を構造的に一体に造る）の傑作とされている。社殿 7 棟が国の重要文化財に指定されている。
【祭神】須佐之男命（すさのおのみこと） 大山咋命（おおやまくいのみこと）
誉田別命（ほんだわけのみこと）

ツツジの見頃は
4 月中旬～5 月上旬

【楼門】

【拝殿】

【権現造】ごんげんづくり
本殿と拝殿の 2 棟を一体化し、間に「石の間（いしのま）」と呼ばれる一段低い建物を設けているのが特徴。権現造の発祥は静岡県の久能山東照宮（1617 年建立の社殿）とされる。その起源は仏寺の開山堂（相の間で祠堂と礼堂を結ぶ）が起源とされるが、その基は八幡造と言われている。

【日本武尊】（やまとたけるのみこと）
第 12 代景行天皇皇子、第 14 代仲哀天皇の父。
熊襲征討・東国征討を行なったとされる日本古代史上の伝説的英雄。
※「まほろば会」の名称は、ヤマトタケルがその最期に臨み、故郷の大和をしのんで詠んだとされる歌「やまとは くにのまほろば たたなづく おあがき やまごもれる やまとしうるはし」に因むものです。この歌の意味：「大和は国の中で一番良いところである。幾重にもかさなりあった青い垣根のような山やまにかこまれた大和はほんとうにうるわしいところであります。」
（歌の解説は、「桜井市ホームページ」より）

【参考】根津神社近辺の史跡等（今回は割愛します）

【参考】日本医科大学
1876 年(明治 9 年)に長谷川泰により創設された済生学舎を前身とする開学 130 年を超える日本最古の私立医科大学である。戦前に大学令によって旧制大学に昇格したのは私立医大では 3 校であり、慶應義塾大学医学部、東京慈恵会医科大学と共に、私立医大御三家と称されることがある。野口英世は済生学舎の出身。

【参考】猫の家
文豪夏目漱石（1867～1916）の旧居跡。ここには、イギリスから帰国後の明治 36 年から 3 年間住んだ。この間、東京大学英文科・第一高等学校の講師として活躍する一方、処女作『我輩は猫である』を執筆し、この旧居は作品の舞台となった。『倫敦塔』『坊ちゃん』『草枕』等を次々に発表したところでもある。なお家屋は愛知県犬山市にある「明治村」に移築され公開されている。

【参考】青踏社発祥の地
1911 年（明治 44 年)、平塚らいてうを中心として結社された女流文学者、フェミニストの団体。 機関誌『青鞜』を発行し、婦人解放運動を精力的に展開した。

【参考】森鴎外記念館
明治の文豪森鴎外が誕生して 150 年目の 2012 年、開館。
文京区千駄木は、鴎外がその半生を過ごした地である。記念館が建つ場所は、鴎外の旧居「観潮楼」の跡地で、鴎外は 1892（明治 25）年から、亡くなる 1922（大正 11）年までここで過ごした。（文京区のホームページより）

【昼食】大島屋さん（天ぷらそば・天丼）

創業 1958 年
谷中の地で 50 年以上続く老舗蕎麦屋
秘伝の出汁つゆは、本かつを節、さば節、北海道産昆布など
厳選素材を創業当時そのままの製法で変わらぬ味を守り続けてます。
70 以上もの寺院とノスタルジックな古民家が立ち並ぶ下町風情あふれる
古き良き昭和の面影を残す街並みを散策がてらに是非お立ち寄り下さい。
（「ぐるなび」より）

※ 店の裏に「指人形笑吉」という指人形屋さんがあります。
食事前に場所を案内しますので、食事後、ご興味があれば見学してみてください。

【全生庵】（ぜんしゅうあん）

【由来】

当庵は山岡鉄舟居士が　徳川幕末　明治維新の際　国事に殉じた人々の菩提を弔うために　明治16年に建立した　鉄舟居士は慶応 4 年 3 月　江戸城総攻撃のため官軍東征するや　徳川 15 代将軍慶喜の命を受け　単身で　静岡まで進軍して来た官軍の大本営に赴き　総参謀西郷南州に面接し　江戸城無血開城の道をひらき　江戸市民を戦火の災厄から救い　徳川家の存続をも全からしめた　明治5年から10年間　明治天皇の侍従となり天皇を精神的に教導申し上げ　英邁な明治大帝を育成した　また剣、禅、書の奥義を極め　剣の無刀流を開いた

全生庵の寺名は　明治 7 年居士が鎌倉建長寺開山蘭渓道隆禅師自筆の全生庵という額を人から貰いこれを書斎に掛けて愛蔵していた

明治 13 年　居士が一寺建立を発願し　寺域を道友国泰寺越叟和尚のすすめにより谷中の現在地に選定した　ところが計らずも 此の土地が 700 年前　道隆禅師が江戸に漂着し九死に一生を得て　全生庵という庵室を作って閑居していた旧跡であるということが分かった　居士も奇縁に感じ　明治16年　全生庵を寺号とし　居士邸から曾て江戸城の守本尊であった葵正観世音の霊像を遷して本尊とした

明治 21 年 7 月 19 日,鉄舟居士は 53 才で逝去　全身を当庵に葬る　法名は全生庵殿鉄舟高歩大居士
当庵は臨済宗国泰寺派　開山は越叟和尚　開基は山岡鉄舟居士である
尚居士との因縁で　落語家の三遊亭円朝　国士の荒尾精　山田良政　岡田満　石油開発者の石坂周造　長谷川尚一　画家の松本楓湖　教育家の棚橋絢子　の墓所があり　円朝遺愛の幽霊画 50 幅　明治大正名筆の観音画 100 幅が所蔵されている　全生庵七世現住職　平井正修記

（以上、全生庵ＨＰより転記させていただきました。合掌）

【参考】寺町の通り

全生庵から朝倉彫塑館まで、数多くの寺が並びます。「寺町美術館&ＧＡＬＬＥＲＹ」は、浮世絵のコレクション、「すぺーす小倉屋」は江戸後期の質屋店舗と大正期の土蔵が見学できます。（これらの施設には今回は立ち寄りません。）

【築地塀】（つきじべい）

築地塀は、観音寺境内の南面を画する延長 37.6mのいわゆる練り塀で江戸時代に築造された土塀です。土と瓦を交互に積み重ねて作った土塀に屋根瓦をふいた珍しいものです。

【朝倉彫塑館】（あさくらちょうそかん）

朝倉彫塑館は朝倉文夫のアトリエと住居だった建物です。朝倉は東京美術学校を卒業した 1907(明治 40)年、24 歳の時にここ谷中の地にアトリエと住居を構えました。当初は小さなものでしたが、その後増改築を繰り返し、現在の建物は、1935(昭和 10)年に完成しました。建物は朝倉が自ら設計し、細部に至るまで様々な工夫を凝らしており、こだわりを感じさせます。

朝倉はここを「朝倉彫塑塾」と命名し、教場として広く門戸を開放して弟子を育成しました。1967(昭和 42)年に故人の遺志により自宅を朝倉彫塑館として公開、その後、1986(昭和 61)年に台東区に移管され、台東区立朝倉彫塑館となりました。

その後、2001(平成 13)年に建物が国の有形文化財に登録され、2008(平成 20)年には敷地全体が「旧朝倉文夫氏庭園」として国の名勝に指定されました。

sculpture の訳語として、彫り刻む技法（carving）とかたちづくる技法（modelling）を合わせて「彫塑」という言葉が生まれたのです。提唱したのは大村西崖という朝倉の先生でした。朝倉は「彫塑」という言葉にこだわりを持ち、朝倉彫塑館と命名したのです。 しかし「彫塑」という言葉は定着しませんでした。現在、日本では「塑造」を含んだ広い意味で「彫刻」と呼ぶことが一般的です。

【経王寺】（きょうおうじ）

明暦元年（1655）創建の日蓮宗の寺院で大黒山と号し、境内の大黒堂には日蓮上人作という大黒天が祀られています。旧谷中七福神のひとつです。

慶応 4 年（1868）の上野戦争に敗れた彰義隊士がここへ隠れたため、新政府の攻撃を受けました。天保 7 年（1836）建立の山門には銃撃を受けた弾痕が今も残り、当時の激しさを今に伝えています。

この山門前が「谷中銀座」散策の起点・集合場所です。

【谷中銀座】

谷中銀座商店街は日暮里駅から歩いて数分の所にあります。日暮里駅から歩き出すと最初は寺町の風情、徐々にお店が増えていき急に視界が開けた場所に出ます。「夕やけだんだん」とよばれる夕日の名所です。そして眼下には商店街が広がります。初めて訪れた方は「東京にもまだこんな景色が…」と、古き良き時代の懐かしさを感じていただけるのではないでしょうか。

レトロな下町情緒をお楽しみください。
集合場所を間違えないでください。

【迷った場合の緊急連絡先】　西村：090-3876-9491　恒成：090-9958-0963

【天王寺】（てんのうじ）

日蓮が鎌倉と安房を往復する際に関小次郎長耀の屋敷に宿泊した事に由来する。関小次郎長耀が日蓮に帰依して草庵を結んだ。日蓮の弟子・日源が法華曼荼羅を勧請して開山した。1641 年（寛永 18 年）徳川家光・英勝院・春日局の外護を受け、29690 坪の土地を拝領し、将軍家の祈祷所となる。

開創時から日蓮宗であり早くから不受不施派に属していた。不受不施派は江戸幕府により弾圧を受けた。1698 年（元禄 11 年）強制的に改宗となり、廃寺になるのを惜しんだ輪王寺宮公弁法親王が寺の存続を望み、慶運大僧正を天台宗 1 世として迎え、毘沙門天像を本尊とした。慶運大僧正は、後に善光寺を中興する。当寺の改宗をもって、祖師像は瑞輪寺に引取られていった。「長耀山感応寺」から、のち「護国山天王寺」に改号。

1700 年（元禄 13 年）徳川幕府公認の富突（富くじ）が興行され、目黒不動、湯島天神と共に「江戸の三富」として大いに賑わった。1728 年（享保 13 年）幕府により富突禁止令がだされるも、興行が許可され続け、1842 年（天保 13 年）禁令が出さ。れるまで続けられた。

幸田露伴の小説「五重塔」のモデルはこの天王寺にかつて存在した五重塔がモデルとなっている。おしくも昭和 32 年放火により焼失した。

往時の五重塔

【谷中霊園】（やなかれいえん）

東京都台東区谷中 7 丁目にある都立霊園。旧称の谷中墓地（やなかぼち）と呼ばれることも多い。面積は約 10 万平方メートル、およそ 7,000 基の墓がある。徳川家 15 代目将軍慶喜や鳩山一郎・横山大観・渋沢栄一などが眠る。

【本邦火災保険鼻祖・柳川清助（やながわきよすけ）の墓（谷中霊園）】

東京火災設立の功労者、柳川清助
安田火災百年史　明治21年～昭和63年

柳川清助　　京橋墨町の醤油屋の息子として安政5年（1858年）に生まれる。
　　大正6年（1921年）63歳で逝去。

明治11年（1787年）ドイツ人パウルマイエット博士が日本のような災害の多い国では国営強制火災保険制度が必要であると論じた。この論に賛成した時の大蔵卿大隈重信は東京府（松田道之府知事）に命じて家屋火災保険国営法案を起草して参事院に上申させたが、国営の可否で内務省の反対にあい挫折した。
松田家の出入り商人であった清助は、波鶴未亡人を通じてその計画書類を知り、同未亡人およびその実兄旧鳥取藩家老・鵜殿長等と図り、明治21年（1888年）本邦初の民営（有限会社）東京火災保険会社を設立したが、資金調達や経営方針を巡って他の発起人と対立し創立間もなく会社を去る。

東京火災は明治23年の横須賀火災や明治25年の神田火災により経営が危うくなり、安田善次郎等の救済により再建された。

その後、明治26年（1893年）武井守正（鳥取県知事、貴族院議員等を歴任した後実業界に転じた）と安田善次郎が帝国海上保険（株）を設立した。

ecute Nippori

谷根千 Map